DSとともに歩いた サウンドクリエイトの7年

EXAKT SYSTEMにより、新たな領域に入ったLINN DS。

最初の製品KLIMAX DSが2007年11月に発売されてから早くも7年になろうとしています。思い起こせば現在のDSラインナップとなるまでに色々なことがありました。サウンドクリエイトとDSの歴史を振り返ります。

LINNを代表する銘機CD12の後継機を心待ちにしていた私たちにDSリースのニュースは、驚きと困惑をもたらしました。ドライブメカを持たず、SACDはおろかCDすら単体としては再生せず、操作ボタンも一切装備されない【KLIMAX DS】。

パソコンやNASを利用する音楽再生なんて「ピュア」オーディオの常識では御法度の上、KLIMAXの素晴らしい筐体に納まっているとは言え、ネットワークの知識は浅く、iPadもiPhoneも存在せず…、ネットワーク機器との取組みには、当初悪戦苦闘を強いられました。

しかし、だからこそ出てきた「音」には衝撃を受けました。S／Nも音の情報量もそれまで体験したことのないレベル、特にアーティストの息づかいまで分かる弱音部分の表現力にはただただ圧倒されるばかり。

LINNの目指す音、進むべき方向はこれだという意気込みを、スタッフ一同あの瞬間に確信したのです。

それからは手探りながらも、早々にDSの真価を認められた方が少しずつユーザーとなって下さいました。「音がすばらしい。もしかしたら、いやおそらくディスク以上…」という波紋がじわじわと広がっていきます。

そして2008年2月に発売された【AKURATE DS】。それまでのKLIMAXに比べ入手し易いモデルとして大いに期待しました。DSに積極的に取り組む経緯で特別に聴く機会を得た最初のプロトタイプは、S／Nはとても良いが低域の厚みと音離れがもう一歩と感じられKLIMAXとは大きな差がありました。この時から私たちの検証の日々が始まったのです。

従来のオーディオと異なり、LAN接続するため、それまで知らなかったデジタルノイズの影響も考えられます。様々な検証をLINN JAPANに報告し、発売開始時にはすばらしい音質のものとなりました。

2008年8月には、エントリーモデルの【MAJIK DS】が登場。この頃分かったことは、アースの落ちていない日本の電源事情による影響。PCやNASからのノイズは、アースの落ちない環境では逃げ場がなくシステムの音質に影響を及ぼしてしまいます。普及機であるMAJIK DSができるだけいい音質になればと、検証に力を注ぎました。

その甲斐あって、LINNが製品化してくれたのが2009年11月に発売されたライントランス【PURIFI】です。

このPURIFIの登場に長くかかったのは、やはり日本の電源事情が要因です。アースのとれる英国と、アースのない日本では検証結果に大きな違いがあり、LINNのエンジニア達に私たちが実感していることを理解してもらうまでには多くの時間を要したのです。実際には、来日の機会をとらえては、当店のアースのない環境での影響を彼らにも体験してもらいました。

この頃からLINNのエンジニアルームにも日本と同じ100Vのアースの落ちない環境が用意され、製品開発にあたって日本と同様の環境での確認検証が必須項目となったそうです。苦労が報われたと思える瞬間でした!!

2010年12月【AKURATE DS／K】発売。

AKURATEシリーズがフルモデルチェンジ。日本用には、オリジナルのKLIMAX DSと同じ出力トランスが搭載された高音質モデル【AKURATE DS／K】がラインナップされました。LINN社内でもこの日本用Kシリーズを使っているエンジニアがいるというエピソードもあります。

2011年5月【KLIMAX DS／K】発売。

初代モデルからオーディオ回路すべてがアップグレードし、トランスもより大型で高品質なものになりました。しかし、新しいトランスには構造上これに合ったアースの取り方が必要であることが発覚しました。RCA出力とXLR出力で別個のアースシステムが必要であることがわかったのです。

LINNが製品に採用した解決策は、設定ソフトKONFIGで、RCA出力／XLR出力を選択し製品内部でそれぞれに最適なアースルートが設定できるようにすることでした。日本仕様の【K】シリーズのみこのシステムは導入されています。

その後発売された【KLIMAX DSM】や【AKURATE DSM】には、こうした日本での経験が反映され、世界スタンダードモデルとして発売されています。

当店では発売当時から、DSがその音質を最大限発揮できるよう、電源の取り方、ルーターやHUBの使いこなしによるネットワーク構築、LANケーブルの選定等、様々なものを試しています。

CUSTOMER'S VOICE

お客様の声

友人の「とにかく一度聞いてみて」という強い勧めで、ご来店されたF様。少年時代からステレオサウンド誌を眺めてはオーディオに夢を膨らませていたそうです。

忙しい毎日を過ごされ、手元に置いていらしたオーディオは、10年以上お使いで、その間にDSが発売されていたのでした。

お仕事柄、海外出張が多く時間があればクラシックやオペラのコンサートに行かれるF様は生の音楽をよく聴かれています。

そんなF様がLINN DSを聴かれた第一声は、まさに「生の音のようだ!!」でした。

音の純度が高く感じられるフレッシュさ、S／Nの良さに、CD再生では感じたことのなかった音が埋まる感覚がライブ体験に近いように感じられ、再びオーディオ熱に火がついたのでした。

最初にご自身のお部屋兼、オーディオルームにKLIMAX DSをご導入。音質もさることながら、好きなCDで構築されたライブラリは見ているだけでも楽しく、iPadでの操作も手軽で、ひとたび音を出せば別世界へ行ける…そんな音楽の新しい楽しみ方も見いだされました。また複数台のDSでNASを共有してそれぞれ個別に再生出来ることにも魅力を感じられ、リビングではMAJIK DSMをお使いです。

オーディオ熱は更に加速し、仕事でお使いの江ノ島の別宅には、少年時代からの憧れだったヴィンテージの銘機、TANNOYオートグラフ英国オリジナルとKLIMAX DSMをご導入。

そして、この度リリースされたLINN EXAKT DSMも…。

曰く、「毎回生演奏を聴いているよう」で、本当にリアルで解像度が高く、音像が明確で各楽器のグラデーションがはっきり分かる。オートグラフのシステムでは、EXAKTのようなレンジ感や超リアルな感じはなくとも、音楽のなにか熟成した旨味を味わえるところが気に入っていらっしゃるとのこと。

操作は簡単。様々な使い方で音楽の出会いが広がる。そして音の素晴らしさ。このミュージックライフは「もう手放せない!!」

新製品情報

LINNには、また楽しい動きがあるようです。

DSのソフトウェアは、アップグレーダブルで2007年発売のKLIMAX DSのソフトウェアから数えれば、驚くばかりのアップデートを繰り返し、そのたびに機能が増え、なんと音質が向上することもありました。

操作ソフトも、お客様から頂くご意見やご要望はLINNにフィードバックされ、より使いやすいものへと細かい部分まで更新されてきました。この度の新情報は、まさに操作ソフトのアップデート。新しいソフトは「Kazoo」。海外の笛の玩具のように誰にでも簡単に使え、より早く楽曲検索できることを目指したソフトとのことで今後が楽しみ。更に、EXAKTは従来のAKUBARIKSピーカーと同形でAKURATE EXAKTが登場。LINNの最新テクノロジーをふんだんに投入したKLIMAX EXAKTの兄弟機として、ますます目が離せません。

サウンドクリエイトでは、前述した製品への取り組みから、周辺機器の検証、その他どなたでもDSが使いやすいようトラブルシューティングなどを紹介しているWEBページ「DSあれこれ」、ご納品やデモンストレーションなどのご自宅訪問など、積極的に取り組んでいます。

◀◀◀ SOUNDCREATE

〒104-0061 東京都中央区銀座5-10-6 第一銀座ビル 7F
URL. www.soundcreate.co.jp ｜ TEL. 0120-62-8166

SOUNDCREATE Legato ▶▶▶

〒104-0061 東京都中央区銀座2ー4ー17
URL. www.soundcreate.co.jp/legato/ ｜ TEL. 03-5524-5828

営業時間：12:00～19:00　定休日：毎週火曜日/第2、第3月曜日（除く祝日）

取り扱いブランド　LINN／OCTAVE／MAGICO／B&W／JBL／Sonus faber／PIEGA／Brodmann／Albedo／Davone／McIntosh／ELAC／KEF／NuForce／TRIGON／QUADRASPIRE／ヴィンテージ各種…etc